



天気の変化に注意し、適切な温度管理を！

気象庁の季節予報では、今後1か月の平均気温は「低い」確率が50%（4月20日発表）ですが、気温の低い日や曇天の日でも、ちょっとした晴れ間でハウス内はすぐ高温になります。育苗期間中は、こまめに温度を確認し、遮光資材（高温晴天時）、保温資材（低温時）等の活用や、ハウス開閉の調整で、天気にあわせた管理を徹底しましょう。

1 適切な育苗管理

育苗ハウス等の温度管理を徹底し、充実した丈夫な苗に仕上げましょう。

育苗後半の温度管理

- 徒長苗は、活着、分けつが遅れるため、苗を伸ばしすぎないように注意しましょう。
- 夜間の管理は、強い低温がない限りはハウスを開放し、外気に慣らして管理しましょう。

【育苗ステージごとの適切な温度と注意点】

	昼間	夜間	注意点
出芽時	30～32℃		○無加温出芽は出芽を揃えることが重要。 きめ細やかな管理を行う。
緑化期 (出芽後2～3日)	25℃	15℃	○外気温が25℃以上の日は要注意。 午前中の早い段階にハウスを開ける。
緑化期以降	20～ 25℃	8℃以上	○低温時には保温に努める。 ○翌朝に霜が予想される場合は夕方の早い段階にハウスを閉める。

育苗期の水管理

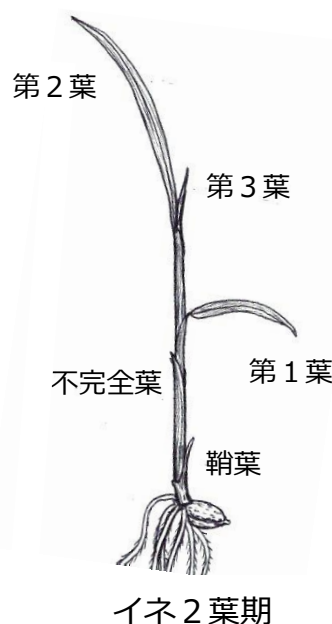
- かん水は午前中に1回が基本です。夕方のかん水は根張り不良となるため避けましょう。
- プール育苗では、1.5葉期からハウスを開放し、入水します（上限は床土の高さまで）。
2葉期以降は、常時湛水とします（箱の上1cm程度の水深、最大でも草丈の半分以下）。
苗が伸びやすくなるため、ハウス内の気温は低めに管理しましょう。

育苗期の追肥

- 適切に追肥を行い、葉色が濃い健苗の育成に努めましょう。
- 育苗土に緩効性肥料（育苗一発肥料など）を使用した場合には、追肥は不要です。

【追肥の時期と追肥量の目安】

苗の種類	育苗期間	追肥時期	追肥量の目安
稚苗 (2.5葉)	20～25日	1.8葉期	窒素成分が10%の液肥1ℓに水を加え100ℓに希釈し（100倍希釈）、1箱当たり1ℓを散布。
中苗 (3.5葉)	30～35日	1回目：2.0葉期	
		2回目：3.0葉期	



育苗期間中の病害対策

○出芽を揃え、温度管理やかん水を適切に行い、病害を発生させない環境づくりが大切です。

カビの発生や、苗の生育異常がみられる場合には、早めにご相談ください。

【育苗期間中に発生する病害と対策】

病原菌	主な症状		発生条件	発生抑制のポイント
リゾプス	覆土を覆う白いカビ		出芽時の 高温過湿	○33℃以上の高温、 過湿にしない
フザリウム	根のまわりに白色～ 淡紅色のカビ		出芽～緑化 期の低温、 湿度の変動 が大きい	○低温をさげ、適切 な温度を保つ ○過湿にしない
ピシウム	カビは見えない、ムレ苗 2葉期頃に葉の萎凋症状			
トリコデルマ	床土や糞の修正に白色～ 青緑色のカビ		水分不足 育苗土の 低 PH	○33℃以上の高温に しない
苗立枯細菌病 もみ枯細菌病	第2葉葉身基部の黄白化、 枯死、坪枯れ		高温過湿 育苗土の 高 pH	○高温過湿にしない ○発生した場合は苗 を速やかに処分

2 適期の田植えと初期の水管理

田植えの適期は5月15日～20日頃です。**【つや姫・雪若丸の田植えは5月20日まで】**

田植え時の留意事項

- 田植え作業は、低温や強風の日をさげ、**天候の良い日**を選んで行いましょう。
- 栽植密度は70株/坪、株当たり4～5本**を目安とします。
- 植付け深は3cm程度**に調整。(深植えは分げつの発生を抑制します)
- 箱施用剤や除草剤は、ラベルを良く確認し、間違いのないように使用しましょう。

田植え後の水管理

- 田植え直後は、4～5cm程度の水深で活着を促進させます。活着後は、2～3cmの浅水管理とし、日中止水・夜間かんがいで、分げつの発生を促進させます。



春季農作業事故防止啓発運動 展開中！

トラクターの事故に要注意！

○春先はトラクター運転で感覚が取り戻せておらず、操作ミスが原因の事故が多くなる時期です。

焦らず、気もまず、計画的に作業を行いましょう。

○安全確認と予防対策（ブレーキ連結等）で公道でのトラクターによる事故を防ぎましょう。